

第5期 支援者の生と知的（発達）障害者の生をクロスさせる— 受講生募集！

“EPO支援者エンパワメント塾”

2016年1月～3月の各15日に開講！ 一つのテーマで3回通して、よくよく分かりたい。

起きてしまった虐待事件は当然裁かれる、「裁かれる場」となれば支援者は、自己弁護も含めて受動的な発想になる。しかし、「支援と関係性-虐待を考える場」となれば支援者は、自己の葛藤も含めて積極的な発想で課題究明へ。——知的（発達）障害者を前にする「支援現場」の日常において、おもわず荒い言葉をかけてしまう自分、やってしまう自分に、虐待的行為（身体的・心理的虐待、ネグレクト）に接近かどゆれるときもある。そんな「葛藤や恐れ」をともなった支援者の生に、知的（発達）障害者の生をクロスさせて、虐待にかかわる問題にアプローチ！参加お申込みください。

□期日①1月15日（金）②2月15日（月）③3月15日（火）・午後6時30分～（開場30分前）

□会場 大阪市民交流センターひがしよどがわ（JR新大阪駅・東出口から徒歩5分）

□定員 100名（定員になり次第締切り） □受講料 6,000円（資料代込み）

□受講対象 知的（発達）障害者の支援にかかわる方、並びに本テーマに関心のある方

□申込先：Fax 06-6320-6068 ・Eメール npoepo@nifty.com

＜支援と関係性-虐待を考える＞

■第1回—— 1/15（金）pm6:30～

*虐待に関わった加害者らを題材にした映画「アクト・オブ・キリング」の短縮上映。

加害者自らが得意げに田舎町で行った虐殺場面や虐殺に至る過程など語り、演じる。

—2012年映画化：インドネシアの軍政下、1965年から約2年間で共産党系とみなされた住民ら数十万人が虐殺された。バリ島では虐殺に加担した住民と家族を殺された住民が今も同じ町で暮らす。



*グループセッション

映画を題材にして「虐殺（虐待）」の構造や加害者心理などなど、参加者で意見交流。

■第2回—— 2/15（月）pm6:30～

*事例報告 下関市「知的（発達）障害者虐待事件」

全国放送で広まった「虐待」は衝撃的なものだった。

—自分を見失なう支援について考える

重利 政志（弘徳学園）

—ピープルファーストの抗議行動に同行した支援者として

福岡 拳（創思苑）

*講義「虐待の根にあるもの：人が人との対等性を失うとき」

浜田 寿美男（奈良女子大学名誉教授、立命館大学特別招聘教授）



■第3回—— 3/15（火）pm6:30～

*シンポジウム&トークの場—1, 2回を踏まえて

「支援と関係性—支援現場における虐待を考える」

“9時までナマ討論”の輪が広がる！—登壇する支援者たち

（5団体アイウエオ順）—山田/えんびつの家 ・林, 西野/創思苑 ・鍋島/和

・枝本, 尾谷, 佐田, 宮崎/路交館 ・渡辺/ひまわりの家

—第1回のグループセッションを踏まえて参加者も自由な発言を！

